

CNJ

Know (≠ No) More Cancer 私たちは、もっと伝えたい

Speakers



No.
13

Special Talk がんと向き合う「いのちのケア」とは/
Report/JCF開催報告/News/Event Schedule/
私たちの草の根活動/海外がん医療 TOPICS /
スタッフ&ボランティア紹介



田中 雅博（内科医・僧侶・がん患者）

梅田 恵（がん看護専門看護師）

「いのちのケア」とは

“自分の命を超えた価値”を見出す

医師・僧侶として

国立がんセンター（現・国立がん研究センター）の医師として多くのがん患者に接し、その後、仏教の僧侶となった田中雅博氏。自身が2014年にステージ4bの膵臓がんを診断され、患者としての立場も知る田中氏には、現在、人々の「死の苦しみ」をケアする「いのちのケア」の必要性を提唱されています。はたして、いのちのケアとはどのようなものなのでしょうか。医師、僧侶、そして患者の視点からお話を伺いました。聞き手は、がん看護専門看護師の梅田恵さんです。

医師、そして僧侶になったいきさつ

梅田恵（以下、梅田）…田中住職は、まず医師となり、その後に僧侶になられたという変わった経歴をお持ちですが、そのいきさつを教えてくださいませんか。

田中雅博（以下、田中）…もともと私は、お寺の出身なんです。西明寺（さいみょうじ）という、坂東20番の札所で、1300年近い歴史のある古いお寺に生まれました。ですので、もともととは住職になるつもりでいたんです。

私が医者になった理由は、父の勧めがあったからです。と言っても、最初は患者さんを診療する医師として働くよりも、医学の研究をしたいと思って国立がんセンター研究所に行きました。しかし、病院で内科医としての仕事を兼任することになったんです。

梅田…はからずも、患者さんに接する臨床医とされたわけですね。

田中…そうなんです。病院では、進行がんの患者さんを診ることになりました。私が担当したのは、みなさん、治らない進行したがんの患者さんだった

んです。そのような命の局面にいる患者さんと接し、臨終の場面に立ち会って過ごしていました。

そんな現場にいるうち、なぜ父が私に「医者になれ」と言ったかがわかったんです。現在の日本では、患者さんは病院の中にいるため、僧侶がケアに参加することはできなくなっています。私は医師になったおかげで、僧侶になる以前にたくさんのお客さんに関わることができました。情熱的な動機から入った世界ではなかったものの、知



田中 雅博 たなか まさひろ

西明寺住職。1946年栃木県益子西明寺生まれ。1970年東京慈恵会医科大学卒業。国立がんセンター研究所室長および病院内科医師を併任。1983年大正大学仏教学部編入。1990年同大学院満期退学、境内に入院・緩和ケアを行う普門院診療所を建設。2002年からローマ教皇庁医療会議に計4回招待され仏教を講演した。2014年10月にステージ4bの膵臓（すいぞう）がんを診断され、手術を受けるもその後肝臓への転移が見つかる。「いのちの苦しみは消える」（小学館）等、著書多数。



らずと、その時の私に一番必要だった場所に立っていました。

それから38歳まで病院勤務したのち、60歳で急死した父のあとを継ぐため、仏教の勉強をして僧侶となりました。

お寺の中に緩和ケア病室を設置

梅田…お寺を継がれてからは、医療とどのように関わっているのですか。

田中…医療関係者と宗教関係者を兼任しているような形ですね。私の妻は麻酔科医で、緩和ケアにも関心がありました。そこで、お寺の敷地内に緩和ケア病室を作ることになりました。現在は、入院施設のある診療所のほか、介護施設もあります。

日本にも、昔はあった「スピリチュアル・ケア」

梅田…お寺に病院や介護施設があるのは珍しいですね。

田中…実は、日本初の病院は、お寺にあったんです。昔は病院のほかに、薬局や学校、福祉施設もお寺の中に作られていました。現在では、お寺という「お葬式を執り行う」というイメージが強いですが、本来、仏教というのは、死者ではなく、生きていく人々に対するものなんです。『治す・見取る』ということをする宗教なんです。

梅田…『治す』というのは、田中住職が提唱されている「いのちのケア」にも通じるものではないですか。

田中…いのちのケアというのは、「命がなくなる」「我（われ）という存在がなくなる」という苦しみから解放されるためのケアです。多くの日本人は現在、特定の信仰から遠ざかっていますが、宗教というのは信仰とは限らず、「生き方」なんです。死を前提としたところに、人の生き方があります。世界の民主主義の国には生活のあらゆるところにスピリチュアル（宗教的）なものがあり、多種の宗教者が、患者さんの求めに応じて病室へ自由に出入りし、入院初日からケア（スピリチュアル・ケア）をしています。昔の日本では、そのようなケアはお坊さんがしてきたことでした。しかし、仏教の衰



梅田 恵 うめだ めぐみ

昭和大学大学院 保健医療学研究科 教授 / CNJ 理事。
がん看護専門看護師（がん患者への看護を専門とする看護師）を育成する教員。同時に、がん看護専門看護師として、病院のがん医療の現場でがん相談や外来などでも活動。2012年よりCNJ理事。がん情報のあり方を考え、患者の権利や尊厳を護る看護を目指している。

退以降、スピリチュアル・ケアは日本全体からなくなっていました。

人生の物語を完成させる

梅田…私は、緩和ケア看護師として患者さんとお話する中で、がんが見つかって突然バンツと死が現実のものになり、苦しんでいる方々に出会ってきました。いのちのケアが、苦しむ方々の心の癒しになればいいなと思うのですが。

田中…いのちのケアで大切なのは、「自分の命を超えた価値」を見つけてもらうことです。本人の人生の物語を完成して、そこに価値を見出すことです。以前は、宗教の違いなく、がん患者さんや家族が集まって語り合うという、どこか組織にも属さないいのちのケアを行っていたことがありました。現在は、私のお寺でも「癌患者語らいの集

い」を定期的に行っています。この集いでは、がん患者さんに思いを語っていただきます。聞く側は傾聴に徹し、理解・共感して、本人の価値観を受容していきます。

梅田…田中住職のお寺でも行っているんですね。ですが、お寺まで行ける方は少ないかと思いますが。現状で、私たち医療者ができること、また、ご本人が自分で学べる方法はあるのでしょうか。

田中…日本の医療というのは、かなり少ない人数で行っているのが現状です。医師の過重労働で支えている部分も多い。スピリチュアル・ケアを病院内の医療者が兼任するのは無理があると思います。スピリチュアル・ケアの専門職が必要です。

最近では、心理士さんが病院内にて相談を受けるようになっていますが、スピリチュアル・ケアはそれとはまた違った分野になります。精神医学や心理学は心を科学するもので、スピリチュアル・ケアは人文科学にあたります。哲学や宗教学などの分野ですね。ですので、ご自身で人生の物語を完成させていくためには、古典が参考になります。いい物語は、古典として受け継がれているものですから。私は「般若心経」のような仏教の古典のほか、キリスト教の新約聖書やユダヤ教の聖書、ギリシャ・ローマの古典なども勉強し、参考にしています。文学や哲学、世界宗教として残っている古典に共通して含まれているのは、「自分の命を超えた価値」です。そういったものを大事にしていきましょう、というのが人間の特徴ですね。ほかの動物と違うところです。

現在、日本では、医療現場に人文系の専門家を欠いています。しかし、そのような中でも、臨床仏教師や臨床宗教教師が育ちつつあります。これからの期待したいですね。

「いのちのケア」とは

「ご自身が、完治を望めないがん」 なってみて

「自分」というこだわりから離れて生きる

梅田…田中住職は、ご自身に臍臓がんに見つかったわけですが、診断を受けた時はどのようなお気持ちだったのでしょうか。

田中…スピリチュアルな面でも思ったのは、「ついに自分の番が来た」ということです。それまでも、自分の順番が来た時はどうするかということを考え、備えもしていました。そのひとつが、「阿字観（あじかん）」というものです。それは、東洋の文化である「ヨーガ」の一種で、今、医療現場に広がりがつつあるマインドフルネス（心の働きの制御）と同源です。簡単に言うと、「自分」というこだわりから離れ、「自分が死ぬ」という苦しみを吹き消す＝涅槃（ねはん）に至る、という訓練をしています。自分の理想の姿を本尊と言いますが、そこに心を集中していきます。私もその境地に至っていると信じていますね（笑）。

梅田…人はだれでも死ぬということを分かっていたうえで、自己へのこだわりから離れ、どう生きていくかを見出すことがいのちのケアになるのですね。本日は、貴重なお話をありがとうございました。

文／木口マリ
写真／山本華漸・木口マリ



田中住職は、ジャパンキャンサーフォーラム 2016 において「いのちのケア」についてお話いただきました

CancerNet Japan Report

ブルーリボンキャラバン開催！
ブルーリボンキャンペーンアンバサダーの先生方と共に、
近畿大学、大分大学と共催

9月10日(土)、近畿大学医学部大講堂にて、大阪府のブルーリボンキャンペーンアンバサダーである川村純一郎先生を始め、近畿大学医学部の先生方と共に「第29回近畿大学医学部市民公開講座『ブルーリボンキャラバンもつと知ってほしい大腸がんのこと2016 in 大阪狭山』」と題し、ブルーリボンキャラバン in 大阪狭山を開催いたしました。当日は、570名を超える方々にお越しいただき大盛況にて終了いたしました。また、9月18日(日)は、ホルトホール大分大会議室にて、大分県のアンバサダーである猪股雅史先生を始め、大分大学医学部附属病院の先生方と共に「ブルーリボンキャラバンもつと知ってほしい大腸がんのこと2016 in 大分」大分大学医学部附属病院市民公開講座」を開催いたしました。こちらも、当日は、300名の方にお越しただき、盛會にて終了いたしました。10月以降も各地で開催しますので是非、イベント予定をチェックください！

ONCOLO Meets Cancer Experts (OMCE)

第7回は「放射線・重粒子線・陽子線治療ほんとのところ」というテーマで東京女子医科大学 放射線腫瘍学講座 教授 唐澤久美子先生に講演いただきました。第8回は、「男性罹患者数第一位・前立腺がん治療の今」というテーマで順天堂大学泌尿器科 教授 堀江重郎先生に講演いただきました。また、堀江先生から講演料の一部をご寄付いただきました。そして、第9回は「がんと医療情報」というテーマで、国立がん研究センター中央病院 呼吸器内科の後藤梯先生に講演いただきました。

ONCOLO Meets Cancer Experts は50名限定のクロードでの講演とQ&Aです。CNJの他のセミナーのようにビデオで録画公開しないので、ここでしか聞けないぶつちやけ話もあり、会場は大いに盛り上がりました。





MD アンダーソンがんセンターの上野直人先生と神戸大学の向原徹先生によるワークショップに会場は盛り上がりました

患者・家族向けプログラム 医療者と患者の垣根を越えるために

CNJでは近年、がん関係の学会と協働し、医療者と患者・家族を「つなぐ」ことに貢献しています。7月28日(木)～30日(土)の3日間、神戸で開催された第14回日本臨床腫瘍学会学術集会(大会長は神戸大学大学院医学研究科 腫瘍・血液内科の南博信教授)では、「医療者と患者の垣根を越えよう」との主旨で患者・家族向けプログラム(PAP)の企画・運営をサポートいたしました。3日間を通して17の講義をお届けし、合計で1222名の方が参加され、会期中、医療者と患者さん・ご家族との有意義な時間を持つことができました。密度の濃いプログラムに参加者の満足度も高いことがアンケートから伺え、来年に向けた期待の声もいただきました。

2017年の第15回日本臨床腫瘍学会学術集会は、岡山大学大学院 血液・腫瘍・呼吸器内科学講座の谷本光音教授のもと、神戸で開催予定です。この学術集会でもCNJがPAPのサポートをいたします。来年に向けて、より充実した企画を準備中です。乞うご期待！

日本肺癌学会主催市民公開講座 7月17日 京都・京都大学芝蘭会館稲盛ホール 9月10日 札幌・北海道立道民活動センター かでの2.7大会

日本肺癌学会主催の市民公開講座が7月17日(日)に京都で、9月10日(土)には札幌で開催されました。肺がんは難治性がんの一つとされていますが、免疫チェックポイント阻害薬の登場など、その治療は進歩が目覚ましく、大変注目されています。会場には細心の治療を学ぼうと多くの人が来場され、地元の先生方による講演を熱心に聞き入っていました。

無料市民公開講座

もっと知ってほしい胃がんのことがin札幌開催

9月3日(土)北海道立道民活動センターかでの2.7大会議室にて、患者さんご家族100名参加のもと、胃がん市民公開講座を開催しました。UHB北海道文化放送の松本裕子キャスターの司会、北海道大学病院の小松嘉人先生、海老原裕磨先生、函館病院の加藤元嗣先生より講演をいただき、サバイバーの高橋和奈さんの体験談と歌、後半のQ&Aでは来場者から多くの質問が寄せられました。



9/19 肺がん疾患治療啓発キャンペーン もっと知ってほしい肺がんのことが 2016 in名古屋開催

2013年からスタートした本キャンペーンですが、今年の特徴は『もし進行、再発肺がんが診断されたら』というテーマで、近年進歩が著しい肺がんの薬物療法に内容を絞りました。またセミナー後には肺がん患者連絡会の協力を得て、肺がん患者さん、家族のおしゃべり会も開催しました。肺がんの遺伝子変異のあるグループ、変異のないグループ、副作用について話したいグループなどいくつかのグループに分かれてのおしゃべり会は50名近くの人が参加し、大いに盛り上がりました。参加された先生からは「最近の患者さんは以前にくらべて、随分詳しく肺がんについて勉強されている方が多いですね」と感想をいただきました。次回は10月16日(日)に仙台で開催します。



前列左より樋田豊明氏、長谷川好規氏、大西幸次氏、後列左より中井真由美氏、安藤 雄一氏

もっと知ってほしい肺がんのこと特設サイト
<http://www.cancernet.jp/lungcancer/>



2014年より毎年8月に開催してきたキャンサーフォーラム。3年目となる2016年は、マイクロソフトが全世界的に展開しているWindows10 Upgrade Your World キャンペーンの助成を受け、日本橋から全国にがん情報を発信しました。



Japan Cancer Forum2016にご協力いただいたボランティアの皆さん

3年目を迎えるキャンサーフォーラムは、秋葉原から日本橋に。

江戸の時代から、日本橋は、道路網の始点であり、物流、文化、情報の発信起点でした。

2016年は、Windows10 Upgrade Your World キャンペーンへ応募、多くの方がCNJを応援してください。ことにより助成を頂くことができました。その助成金及び株式会社コングレ・株式会社新産業文化創出研究所の特別協力により、2日間に会期を延長、日本橋から全国にがん情報を発信しました。

**「知り」「学び」「集う」
最新がん医療フォーラム**

現在、日本人の死因の第1位はがんであり、国民の2人に1人が一生で何らかのがんに罹患すると言われてい

ます。しかしながら近年、新薬の開発や医療技術の進歩に伴い、個別化治療も進み、治療成績は向上、がんと共に生活している人も増えています。

こうした背景から、がんを「知り」、最新のがん医療や課題を「学ぶ」ことが重要であり、がん患者・家族・医療者・市民が「集う」ことで、勇気や希望が持てる場とするために、CNJでは2014年から、本フォーラムを企画・開催してきました。



プログラムによっては座席が全て埋まり、立ち見が出るほど

**新たなテーマを取り入れ、
参加者は延べ5000人を突破**

3年目となる今年は、各種学会、患者支援団体等の協力を仰ぎ、17の団体とセッション共催を行い、のべ11部屋で75のプログラムを行いました(マイク&フォト、レモネードスタンドを含む)。特に、新しいテーマは来場者の関心も高く、立ち見が出るほどでした。参加者数も過去2年に比べ1.5倍、2倍に増加し、多くの方にご来場いただくことが出来ました。(表1)

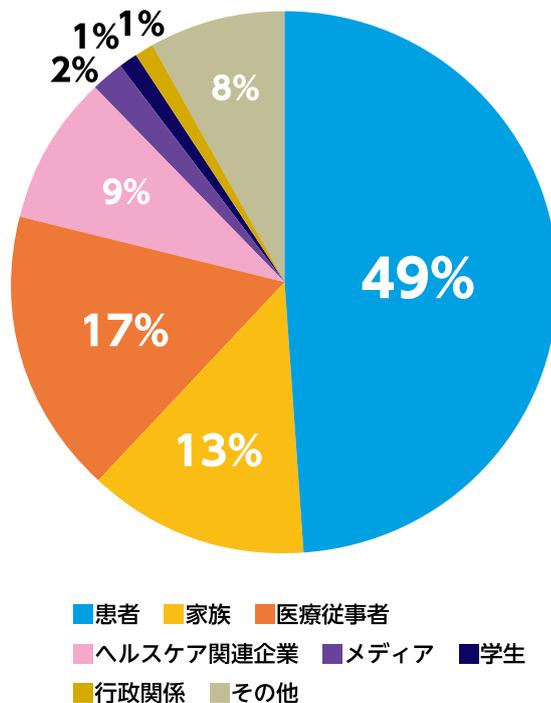
医療従事者の参加が増加

例年、患者・家族が最も多く、初年度は参加者の8割超が患者・家族でしたが、今年は約半数が患者、医療従事者が17%、患者家族が13%と続きました(図1)。医療従事者の割合が増加、また、ヘルスケア関連企業からの参加者も増え、3年目にして、患者・家族だけに留まらず、様々な方にも参加していただきやすいイベントとなったことが伺えます。特に、医療従事者からは、「一般向けに分かりやすく説明していただけるので、自己の学習の復習にもなり、最新の医療も知ることができた。」「難しい内容もありましたが、アップデートな情報に大満足でした。」と高い満足度が得られたようでした。

**登壇者、ボランティアスタッフは
各100名以上**

ご登壇頂いた講師陣は総勢143名、運営スタッフは100名。全て無償でご協力頂いています。当初、2日間開催とする際に、ボランティアスタッフ十分確保出来るのか、1日開催にした方が良いのではないか...との意見も多くありました。しかし、ふたを開けて見ると、2日間両日スタッフとしてご協力くださった方は半数以上の85名も。開催主旨にご賛同いただき、無償でご協力頂いた講師陣の皆さま、会を盛り上げてくださったボランティアスタッフの皆さま、ご来場頂いた皆さまをはじめ、ご理解、ご協力、ご支援を頂きましたすべての皆さまにこの場を借りまして御礼申し上げます。





クロージングセッションでは、がん領域における有害ながん医療情報、医療費の高額化、臨床試験（治験）の空洞化、がんに対する誤解や偏見、がんに関わる就労・教育など社会的課題などについて活発な議論が繰り広げられました

図1 参加者の属性 (2016年)

表1 参加者数・寄付金・後援団体数の推移

	JCF2016	ACF2015	ACF2014
参加者数	2,106名	1,414名	1,025名
延べ参加者数	5,704名	3,779名	3,008名
寄付総額*	734,508円	609,824円	286,582円
内レモネードスタンド寄付額	70,355円	128,989円	98,286円
後援団体数	51団体	36団体	26団体

*寄付総額：レモネードスタンド寄付額を含む

Japan Cancer Forum2016@日本橋 coordinated by CancerNet Japan.NPO



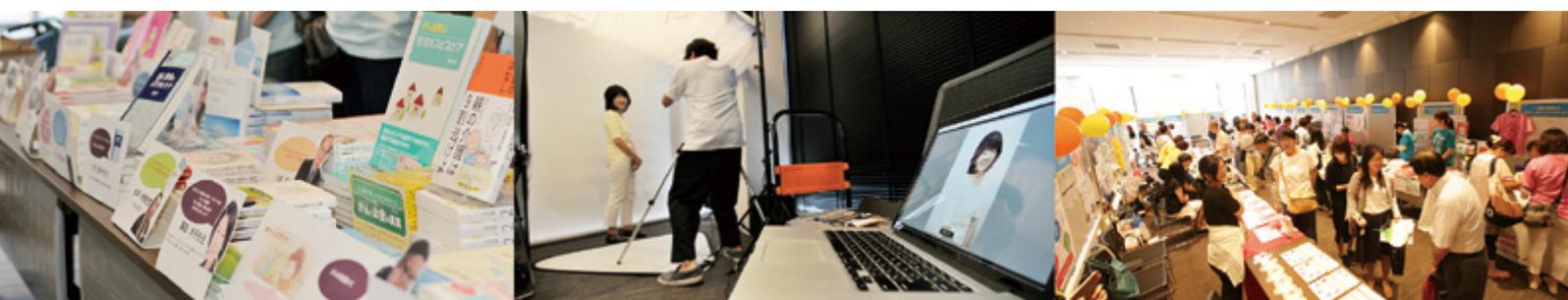
ジャパンキャンサーフォーラム
2017開催決定!!

2017年
8月19日(土)
8月20日(日)
@コングレスクエア日本橋

<http://www.cancernet.jp/jcf/>

「来年もまたここで会おう」

登壇者の熱い議論が繰り広げられたクロージングセッションで幕を引いた今年のキャンサーフォーラム。その最後には来年開催が発表されました。2014年から毎年参加者の中で繰り返されてきた言葉を皆さまへ。「また来年、ここで会いましょう！」



がんに対する臨床試験（治験）の意識調査を実施 医師・患者・一般いずれの立場においても がんに対する臨床試験（治験）情報への高いニーズが！

臨床試験（治験）が円滑に進まない要因の一つとして被験者不足があげられていますが、しかし、がんの臨床試験への参加を希望する患者は決して少ないわけではなく、このような一見矛盾したような状況になる原因としては、臨床試験の参加条件の複雑化、臨床試験啓発の不足、実施制度や各関連機関の事情等、様々な要因が重なり合っている事が推測されています。

このような背景から、がんの臨床試験について医師、患者、家族、製薬企業等、それぞれの立場の方がどのような意識を持っているのかを調査することにより、立場による認識の違いを確認する意識調査を行いました。

インターネットを通じ、あらゆる人を対象に、2016年5月10日～6月9日、NPO法人キャンサーネットジャパンを主体に、がん情報サイト『オンコロ』、認定NPO法人西日本がん研究機構（WJOG）、第14回日本臨床腫瘍学会学術集会、中央大学理工学部 生物統計学研究室の協力により実施し、2012人からの回答を得て、その回答の半数以上は患者さんやご家族からのものでした。

この調査の結果から大きく3つの事が明らかにになりました。1つは、医師・患者・一般と立場の違いに関わらず、いずれの立場においてもがんに対する臨床試験・治験情報のニーズが高かったということ、2つ目に医師・患者において、がんに対する臨床試験の情報が公開されることの必要性の認識が高いということ、3つ目にがんに対する臨床試験への患者参画に対して、医師、患者におけるその必要性の認識が高いというものでした。

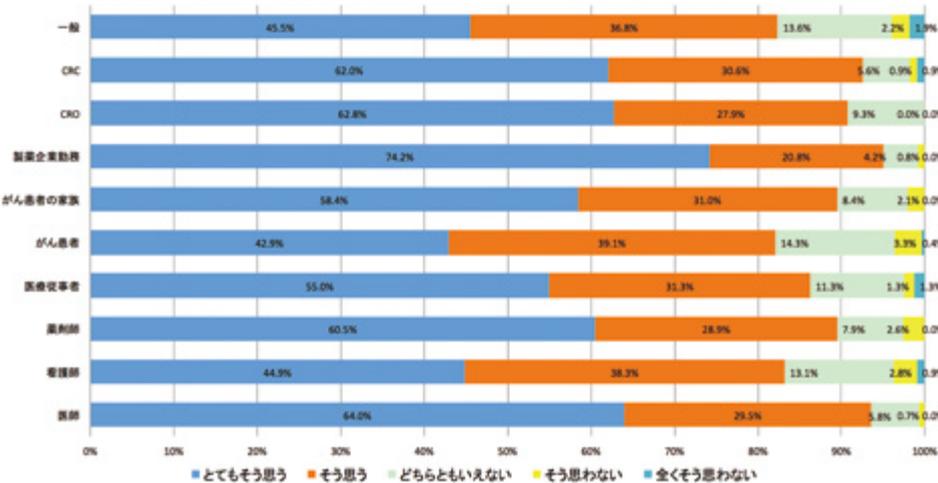
日本において、臨床試験についての認知

は十分でない、また必ずしも良いイメージがないのではと想定していましたが、一般においても80%以上の方々はその必要性があるとの回答がありました。また、海外に比べ、臨床試験のデータベースの整備の遅れが指摘されており、医師・患者において臨床試験の情報の必要性が高いこともわかりました。

更に、近年、欧米においては臨床試験（治験）の計画やその評価に、患者の意見も取り入れられることも多く、このアンケートからも今後日本においても、患者の参画が期待されていることがわかりました。

がんの臨床試験に関する意識調査

あなた自身ががんに罹患した場合、臨床試験（治験）の情報をほしいと思いますか ※患者以外



その他のアンケートの詳細については、本アンケートに協力を得たがん情報サイト「オンコロ」にて公開されます
(ホームページ URL : <https://oncolo.jp/>)

すべての人が輝くためのチャリティ ピンク色の未来をつくろう

小児がんに続き、Gapが乳がんサバイバーの支援を目的とし、すべての人が輝くためのチャリティキャンペーンを実施します。9月26日～10月末まで、全国のGapストアで、有料の寄付金付きピンクチャリティショップバックを100円で購入いただくごとに半額がCNJに寄付されます。また、9月30日～10月2日の3日間、Gapフラッグシップ原宿でチャリティヨガイベントを開催しました。その参加費もCNJに寄付され、寄付金は若年性乳がんサバイバーの支援に役立てます。



MIKI'S

ASCO
参加レポート①



6月3日(金)から開催された、世界で一番権威あると言われるがんの学会 ASCO (American Society of Clinical Oncology アメリカ臨床腫瘍学会) に、トラベルグランドを得て参加しました。

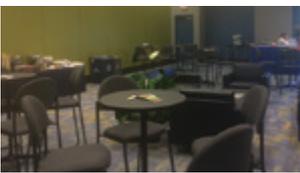


よく聞かれるのですが、ASCOの「患者向けプログラム」に参加したわけではありません。ASCOに「患者向けプログラム」というものがあるわけではないのです。サバイバー、アドボケイトとして参加している人は、学会のどのプログラムにも参加できます。また、専用のラウンジがあり、飲み物やランチ、スナックが用意され、セッションを回っている合間に休憩したり、他の世界各国から参加しているサバイバー、アドボケイトと交流することができ、ラウンジにはホテル等のアレンジから手伝ってくれた2



人の専任スタッフが常駐し、サポートしてくれます。

もちろん、ASCO会長主催レセプションにも招待されます。私も参加し、地元アメリカやヨーロッパからの参加者と交流を深めることができました。日本の学会のイメージとは全く違う雰囲気です、まるでテーマパークに来たかのように楽しめました。皆さんも来年は参加されたいかがでしょうか。トラベルグランドは今年4月上旬に申し込みを受け付けていました。ASCOまたはCancerNetのHPで告知されます。さて、肝心の内容は字数の都合でまた次回に。



小児がん・AYA世代のがん治療・体験者支援の
レモネードスタンド
GapJapan がレモネード特別プログラム &
銀座でレモネードスタンドを開催

babyGapでレモネードスタンドコレクションを発売すると同時に、日本での取り組みとして、6月1日〜6月30日の1か月間、小児がん支援のソーシャルマッチングプログラム(Gapのレモネードに関するFacebook、Twitter、Instagram投稿のシェア、リツイート、いいね!)に対し、1投稿=10円がCNJに寄附されるプログラム)を開催してくださいました。Gap Japanはもちろん、CNJのFacebookやTwitterでも多くの方が拡散してください、中には1投稿で2.9万リツイートされるものもありました!皆さまのお陰で10万件以上のシェア、いいね!が集まり、上限100万円の募金を頂戴いたしました。また、babyGapは、レモネードスタンドコレクションを発売すると同時に、日本独自の取り組みとしてGapフラッグシップ銀座で6月11日〜12日(土日)の2日間、店頭でレモネードスタンドを開催してくださいました!こちらも大変好評をいただき、瓶入りレモネード500本は、2日目の昼過ぎには完売となりました!レモネードスタンドの売り上げ、21万円も、CNJにご寄付いただきました。CNJでも、6月10日は、オフィス内にて「レモネードスタンドBAR」を開催し、11万円の募金が集まりました!益々、日本国内で広がりを見せるレモネードスタンド!是非、チェックしてください!



Pink Ringプロデュース
若年性乳がんのスマールミーティング

「若年性乳がんサポートコミュニティ Pink Ring」がプロデュースする20代・30代の乳がん体験者を対象にしたおしゃべり会です。若年性患者特有の恋愛、結婚、妊娠、出産、子育て、就労などの悩みをみんなでお話ししませんか。
毎月第1木曜 19:00〜20:30、参加費1000円で開催しています。場所: CNJ東京事務局、要予約。

CNJ、認定NPOに!
寄付者に税制の優遇が適用となります

CNJは、8月22日付けで、認定NPO法人となりました。認定取得以降にご寄付いただいた個人・法人に優遇措置が適用されます。相続財産の寄付には非課税の優遇があります。多くの方のご支援を得て、認定を取得することができましたこと、改めてご支援いただいた皆さまに御礼申し上げます。これを機に、今までの以上に幅広い領域からの支援を得て、活動を充実させていきたいと思っております。

CNJへのご寄付はこちらから



※寄付控除については国税局のパンフレットをご確認ください。



静岡県、富山県にて開催

2016年11/6(日) in 浜松

松田病院 30周年記念 市民公開講座
会場：アクトシティ浜松 コンgressセンター 31 会議室
13:00 ~ 16:30

2017年2/4(土) in 富山

会場：富山国際会議場 メインホール
14:00 ~ 17:00 (予定)

がん医療の専門家から本音が聞ける 50名限定！究極のがん情報セミナー ONCOLO Meets Cancer Experts

2016年1月から開催している OMCE も残りわずか。毎回、収録は行なわず、ご来場いただいた方限定の「ここの情報」をお届けしています。講師による講演後、ディスカッショントーク、その後、フロアからのQ&Aセッションと盛りだくさんの1時間半です！ぜひ、お申し込みください。ただ今、下記プログラムのお申し込みを受付中です。

日程	演者	テーマ
10/28	山口 拓洋 東北大学大学院 教授	がんの統計をどう読むか？
11/25	山口 研成 がん研有明病院 消化器化学療法科 部長	進化する大腸がん治療の実際

第57回日本肺癌学会学術集会 公開シンポジウム がん患者・医療者・市民・社会で考える肺がん医療

11/6
(日)
福岡

開催日/11月6日(日) 時間/13:20-16:40 (開場13:10)
場所/アクロス福岡4F 国際会議場

司会：徳永 玲子
[テーマ① がんと共に生きる] 座長：光富 徹哉 (特定非営利活動法人 日本肺癌学会 理事長) 佐藤 孝光 (九州がんセンター 看護師) 演者：坂本 はと恵 (国立がん研究センター東病院サポーターケアセンター)・二ノ坂 保喜 (医療法人にのさかクリニック院長)・小柳 香織 (福岡市薬剤師会理事)・角田 直枝 (茨城県中央病院 看護局長/がん看護専門看護)

[テーマ② 変わりゆく肺がん医療] 演者：鈴木 実 (熊本大学呼吸器外科 教授)・杉山 徹 (岩手医科大学産婦人科学講座 教授) Q&A：座長中西 洋一 (九州大学大学院 附属胸部疾患研究施設 教授)
パネリスト：鈴木 実・杉山 徹・光富 徹哉 特別ゲスト：LinQ、ジバニャン (from 妖怪ウォッチ)

詳細・お申し込み <http://www.cancernet.jp/1106haigan/>

日本肺癌学会主催市民公開講座「もっと知ってほしい肺がんのこと2016 in 東京」

11/27
(日)
東京

開催日/11月27日(日) 時間/13:00-16:00 (開場12:30)
場所/コンgresクエア日本橋 東京都中央区

昨今めざましい進歩を遂げている肺がん治療の最新の治療法を学ぶセミナーです。
総合司会：中井 美穂 (フリーアナウンサー) 登壇者：座長：光富 徹哉 (近畿大学医学部附属病院呼吸器内科)、池田 徳彦 (東京医科大学呼吸器・甲状腺外科)、後藤 功一 (国立がん研究センター東病院呼吸器内科)、山岡 鉄也 (日本肺がん患者連絡会)

詳細・お申し込み <http://www.cancernet.jp/haiganshimin2016/>

第57回日本肺癌学会学術集会 ペイシエント・アドボケイト・プログラム

12/19-21
(月-水)
福岡

開催日/12月19日(月)~21日(水) 場所/福岡サンパレス・パレスルーム 福岡県福岡市
参加費/1,000円 (3日間通し・各日お弁当付)

学会が用意する患者・家族向けプログラムです。医療従事者も参加できます (医療従事者の参加費は異なります)。

詳細・お申し込み <http://www.cancernet.jp/jlcs2016/>

MBSxCNJ JumpOverCancer ちゃやまちキャンサーフォーラム 2016

11/12
(土)
大阪

開催日/11月12日(土) 時間/10:30-17:00 (受付開始10:15)
場所/MBS本社地下1階 ちゃやまちプラザ 大阪市北区

今回も日本イーライリリー株式会社の特別協力により開催します。罹患者の多い乳がん、胃がん、大腸がん、肺がん、前立腺がん、婦人科がんなどの疾患がテーマです。また、MBSIF 本社ロビーでは、株式会社ポーラのご協力によるハンドマッサージコーナーや、患者会、患者支援団体の展示ブース、ミニステージでのメイクレッスンやワークショップ、絵手紙コーナーなどの楽しい企画もいろいろ用意しています！この秋はMBSでがんを「知」い、「学」び、がんサバイバーたちと「集」いませんか。がん患者さん、ご家族、ご友人、医療関係者の方も、そうでない方も、皆さまのご参加お待ちしております。

時間	内容
10:30 ~ 11:00	オープニング
11:00 ~ 12:30	乳がん 講師：増田 結子 (昭和大学病院) 司会：豊島美雪 サバイバー：御船美絵 (若年性乳がん患者の会 PINK RING 代表)
13:00 ~ 14:30	消化器がん (胃がん、大腸がん) 講師：佐藤 太郎 (大阪大学) 司会：西村 麻子 サバイバー：いちのせ かつみ (ファイナンシャルプランナー)
15:00 ~ 16:30	肺がん 講師：中川 和彦 (近畿大学)・里内 美弥子 (兵庫県立がんセンター) 司会：上田 悦子
16:30 ~ 17:00	クロージング

時間	内容
11:00 ~ 12:30	前立腺がん 講師：福森 知治 (徳島大学) 司会：田丸 一男 サバイバー：阿南 太郎
14:00 ~ 15:30	婦人科がん & 妊産性 講師：勝俣 範之 (日本医科大学 武蔵小杉病院) 司会：高井 美紀 サバイバー：阿南 理恵 (子宮頸がん サバイバー)

詳細・お申し込み
<http://www.cancernet.jp/mbscnj/>



1/15 (日)
東京

第3回
東京医科大学
「がんを考える」
市民公開講座
一緒に考え、選び、
支えるがん治療～

2016年1月から開催されている東京医科大学市民公開講座の第3回目です。



BEC 9 期生 NPO法人 代表 吉村 市代 さん

がんストーリーは突然やってきました。2008年、住民検診にて予期せぬがん宣告。早期発見でき社会復帰が叶いました。折角助かった命を役立てたくてNPOを設立し活動しています。今年3月、地元病院の協力により「病院へ行こうツアー」を開催、専門看護師・医師の講話の後、院内を見学、ワークショップと盛りだくさんの内容でした。病院側・参加者ともこんな企画は初めてだと好評を得るとともに、「がんは他人事だ」と思っていた方の意識を少しは変えた気がします。直後に乳がんの手術を控えている患者さんとも知り合い相談を受ける事になり、やりたいと思う事をすぐ実行するようになった私、ねっ！悪い事ばかりじゃないでしょ。

★NPO法人 代表 HP: <http://www.npo-aoikai.org/>



CIN 5 期生 ファイナンシャルプランナー 世継 祐子 さん

「闘病」とは病気と闘うこと。闘うには、まず相手を「知る」ことが大切です。ファイナンシャル・プランナーとして様々なお金に関するご相談をお受けしていますが、「お金の基本的な知識」が十分でないことから不安を抱えていらっしゃる方も多いように感じています。がんについても同様に「知る」ことで解消される「不安」はあると思ひ、マネーセミナーなどで「お金」と「がん」についての身近な情報をお届けしています。お金の知識と同様にがんの知識も少しでも身近なものとして感じていただけるように、今後も継続していきたく思います。

★FP オフィス フォルテシモ HP: <http://www.ff-fukuoka.com>
★ブログ「FP およつぎのマネー診断室」:
<http://www.e-avanti.com/category/blog/fpmoney>
★メール: yotsugi@ff-fukuoka.com

私たちの草の根活動

海外がん医療 TOPICS

予後についての話し合い

予後とは、病気の予想される経過や結果のことです。がんを発症した患者やその家族にとっては、病状がどうであれ、予後について知ることは怖いと感じることでしょう。それでも「多くの方は困難な事態から立ち上がる力を持っていて、闘う覚悟ができるとその力を発揮します。そのためにも、医師と患者は意思疎通が必要です」と、ワシントン大学医学部腫瘍学教授のアンソニー・バック医師は言います。

しかし特に進行した治療不能ながんについての対話は、米国においても医師、患者の双方にとって難しいことです。最近発表された研究結果では、多くの末期がん患者が自分自身の予後を十分に理解しておらず、調査に参加した178人の末期患者のうち、主治医と過去にも最近も予後について話し合ったと答えた患者は13%にあたる24人だけ。18人(10%)は最近だけ、68人(38%)は過去に話したことがあるだけと答え、残りの68人(38%)は、予後について話し合う機会を持ったことはないと言ったそうです。

米国国立癌研究所(NCI)では、予後に関する医師と患者の対話をテーマとする動画シリーズを公開しています。動画の中には、末期がんを患っても、安心して話せる医師に出会い、予後を受け止めながら今日を生き続ける患者が登場します。「最善の結果を期待しつつ、万事にそなえることは両立する」とバック医師は言います。最初に予後について知らされた時に怒りや失望を感じた患者も、信頼できる医師と対話をしながら、どのような選択肢があるのかを踏まえ、それぞれの目標に向けて生きていくのです。NCIの医師は、患者の価値観や優先度は変化、発展することも

あるので、医師が傾聴し、患者の価値観に寄り添って対話を続けることが重要だと話しています。

■予後についてのNCI動画シリーズ

米国国立癌研究所(NCI)の動画に日本語字幕をつけて公開しています。(日本語字幕が表示されない場合は、動画右下の設定アイコンで日本語を選び、CCとあるアイコンを押してください。)

- ・がんの予後を受け止める
- ・怒りから受容へ



- ・暗闇から泳ぎ出る
- ・ある夫婦の場合



- ・医師向け 患者中心の医療



情報提供/海外癌情報リファレンス

ボランティア紹介

CNJの活動は、多くのボランティアに支えられています。Japan Cancer Forumなどのイベントもそうですが、それ以外にも、様々な作業をボランティアに協力していただいています。

今号ではボランティア歴の長いスーパーボランティアさんを紹介いたします。CNJでは月平均4〜5回、イベント案内等を全国の病院へ発送しているのですが、その発送作業を誰よりも早くこなす長谷川和枝さん。長谷川さんは、CNJ認定乳がん体験者コーディネーター(BRC)8期生です。最近ではヨガにもはまっていますという長谷川さん。月に、多いときは5〜6回、東京事務局に来て、黙々と作業をしてくださいます。宛名ラベルを貼るのも、チラシの枚数を数えるのも、封入も長谷川さんの右に出る人はいないくらいスピードが速く、私たちスタッフが作業するときも、長谷川さんにコツを教えてくださいました。いつもありがとうございます！

CNJでは随時ボランティアを募集しています。平日お手伝い出来る方、また休日のセミナー(開催場所は全国主要都市など)のお手伝いの出来る方、info@cancernet.jp まづご連絡ください。



スタッフ紹介

皆さん、こんにちは。キャンサーネットジャパン大阪事務局の水野洋美です！

私は、乳がん体験者で、手術より丸9年が過ぎました。罹患当初は、不安でいっぱい、病気のことを知らずにやみくもに怖がっていました。

そんな時、キャンサーネットジャパンのBEC(乳がん体験者コーディネーター)に出会い勉強していくにつれ、怖がってばかりではダメだ！正しい知識を持って、自分自身で納得のいく治療を選んでいかななくては・・・と思うようになりました。

がんになってよかつたとは、まだまだ思えませんが、がんになったからこそ今の私があると、素直にそう思えます。今の仕事もそうですし、がんになつたからこそその出会い、人の優しき、周りの人々の有難き、日々全てに感謝です。普通に暮らせるということが当たり前でなく、どれほど幸せなことかということもわかりました。自分を責め、生きる理由、病気になる理由を必死に考えていた時期もありましたが、がんは一生のうち日本人の2人に1人がなる時代なので、決して特別なことではないと思えるようになりました。

関西で開催される様々ながん種のセミナーを通して、正しい情報と「一人じゃないんだ！」ということをご皆さんにお伝えできれば・・・と日々頑張っています！今後ともどうぞよろしくお願いたします。



水野 洋美
NPO法人キャンサーネットジャパン大阪事務局

第7回

リリー・オンコロジー・オン・キャンパス

がんと生きる、わたしの物語。

絵画 × 写真 × 絵手紙コンテスト

主催 日本イーライリリー株式会社

後援 公益財団法人 日本対がん協会
兵庫県 / 神戸市 / 大阪市

コンテスト作品募集

当日
消印有効

応募登録期間

2016年8月1日(月) ~ 2017年1月31日(火)

リリー・オンコロジー・オン・キャンパス事務局

MAIL info@locj.jp ☎ 0120-78-1307 10:00~18:00
平日(土日祝日除く)

詳しくは「リリー・オンコロジー・オン・キャンパス」ホームページをご覧ください。

www.locj.jp

好評
発売中
!!

患者さんのための

2016年版

乳がん
診療ガイドライン

日本乳癌学会 編



本書は、乳がん患者さんやそのご家族が、いま知りたいことについて、正しい情報をわかりやすく得られるよう医師と患者さん、看護師、薬剤師が力を合わせ作成した書籍です。最新の情報をもとに、患者さんからの計68の質問(Q)に対する回答(A)と解説を掲載しています。

B5判 240頁 定価(本体2,300円+税) ISBN978-4-307-20354-8

金原出版 <http://www.kanehara-shuppan.co.jp/>



丁寧なメンテナンス済み 完全リフォーム ネットでは文
治開始に間に合います

医療用ウィッグの新しい選び方
医療用かつらレンタル・ディリースを
ご利用いただいた患者さんが無事に治療を
終えられて、不要となったウィッグを
完全にリフォームしてご提供します。

ご提供
価格 **8,800円** (税込)

※詳細は、CNJのHPで発表します。

すぐ
つけたい

スタイルが
見れる

高品質な
かつらがいい

古本・CD・DVD・ゲームソフト・書き損じハガキが

CNJへの寄付になる!

ご自宅や職場などで、不要のものがございましたら、整理整頓を兼ねて寄付をお願いします。

チャリボン
10月20日~11月20日
買い取り額10%UP!!!

チャリボンに
寄付
できるもの



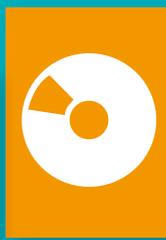
裏表紙に
ISBNコードが
ある書籍



本
(ISBN がついているもの)



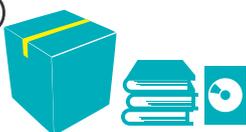
CD、DVD、ゲームソフト
(規格品番がついているもの)



はがき
(書き損じ・未使用のもの)

チャリボンご利用方法 - お気軽 4ステップで完了! -

①



寄付したいものを
詰める

贈与承諾書に記入し、
寄付したい本やCDなどを
ダンボールに梱包してください

②



☎ 0120-826-295
にお電話

「団体 ID146 know more cancer
プロジェクトに申し込みたい」
とお伝えください

③



荷物を
お引き取り

ご希望の集荷日に
宅配業者が伺いますので
お荷物をお渡してください

④



買取金額相当額が
CNJに寄付されます

CNJが開催する
セミナーや講演などに
活用させていただきます

その他注意事項・
贈与承諾書は
こちら▼



※チャリボンは、株式会社バリューブックスのプログラムです。